

# 下呂市地域公共交通網形成計画



平成 31 年 2 月

下 呂 市



# 目 次

序章	はじめに	1
1	背景・目的	1
2	計画の区域	2
3	計画の期間	2
4	計画の全体構成	2
5	上位・関連計画における本計画の位置づけ	3
第1章	下呂市の現状	4
1	少子高齢化・人口減少の顕著な進行	4
2	主要施設の立地状況	7
3	人口流動の状況	11
4	観光入り込み客数の動向	13
5	地域における今後の動向	15
第2章	下呂市における公共交通実態	16
1	下呂市内における公共交通の運行状況	16
2	バスの収支状況	22
3	教育、福祉分野での公共交通	23
第3章	前計画の評価	27
第4章	上位・関連計画との関連	29
1	上位・関連計画における公共交通の方向性	29
2	各計画における公共交通の位置づけ	30
第5章	実態調査結果の概要	32
1	市民アンケート調査	32
2	デマンドバス沿線住民調査	36
3	バス利用者アンケート調査	38
第6章	公共交通に関する課題	40
1	個別課題の整理	40
2	課題の整理	44
第7章	計画の目標と方針	47
1	将来像	47
2	基本的な方針	47
3	計画の目標	50
4	公共交通ネットワークの形成方針	52
第8章	目標を達成するために行う事業及び実施主体	54
1	実施事業一覧	54
2	実施する事業の概要	55
第9章	評価・改善の仕組み	63
1	基本的な考え方	63
2	P D C Aの方法	63



## 序章 はじめに

### 1 背景・目的

下呂市は平成 16 年 3 月に、旧萩原町、旧小坂町、旧下呂町、旧金山町、旧馬瀬村の 5 町村が合併し誕生した。合併前の市内交通体系は、旧萩原町及び旧金山町ではコミュニティバス、旧下呂町では自主運行バス、旧小坂町、旧馬瀬村では、民間路線バスを運行していた。

平成 20 年 4 月、下呂地域の自主運行をコミュニティバス化し、これまで不均衡であった萩原、下呂、金山の運賃の統一化を図るとともに、地域のニーズに対応するため下呂地域、金山地域の交通空白地帯にはデマンドバスの運行を開始し、市民生活の交通手段は最低限確保した。また、料金の見直しに併せて高校生には定期割引制度、高齢者等には福祉パスポートやデマンドバス用の年間利用券を導入し均衡を図った。

平成 24 年 3 月には、下呂市公共交通計画を策定し、「地域に支えられた持続性のある生活交通ネットワークの構築」を目標に定め、路線の見直し等を行ってきた。

しかしながら、その後も少子高齢化や都市部への人口流出により人口減少が進んでおり、公共交通の利用者も下降の一途をたどっている。そのため、下呂市内のバス運行は全ての路線で厳しい収支状況が続いており、現在も市が費用を負担しなければ維持できない状態となっている。バス運行を維持していくために、利用の少ない区間の廃止や利用の少ない時間帯の便数を減らす等の見直しを行ってきたが、多様化、高度化するニーズに現行の取組みでは限界に達しており、公共交通の枠組みでだけでは対応できていないため、新たな枠組みの構築を検討する必要がある。

下呂市は「日本三名泉」の一つに数えられる下呂温泉を有し、年間 100 万人の宿泊客が訪れており、また近年では鉄道等を利用した外国人観光客が多く訪れるため、そういった観光客の二次交通としても考える必要がある。

このような背景を踏まえ、平成 26 年 11 月に「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部を改正する法律」（平成 26 年法律第 41 号）が施行されたことを機に、再度地域に支えられた持続性のある交通ネットワークの構築を目指し、「下呂市地域公共交通網形成計画」を策定する。



▲下呂温泉

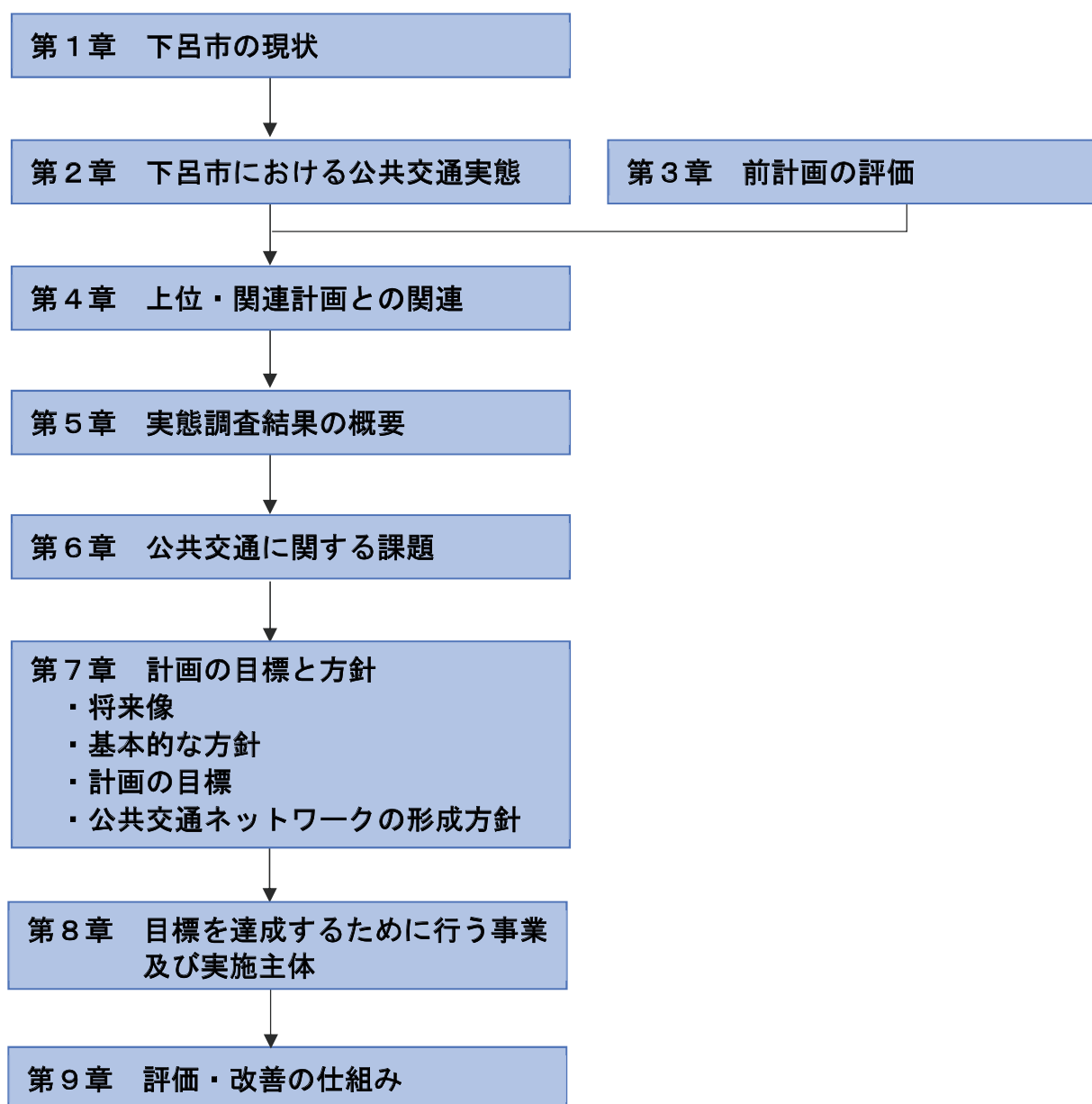
## 2 計画の区域

計画の区域は下呂市内全域とする。

## 3 計画の期間

計画の期間は、下呂市第二次総合計画の計画期間（2015（平成 27）年度～2024 年度）との整合を図る観点から、2018（平成 30）年度～2024 年度の 7 年間とする。

## 4 計画の全体構成

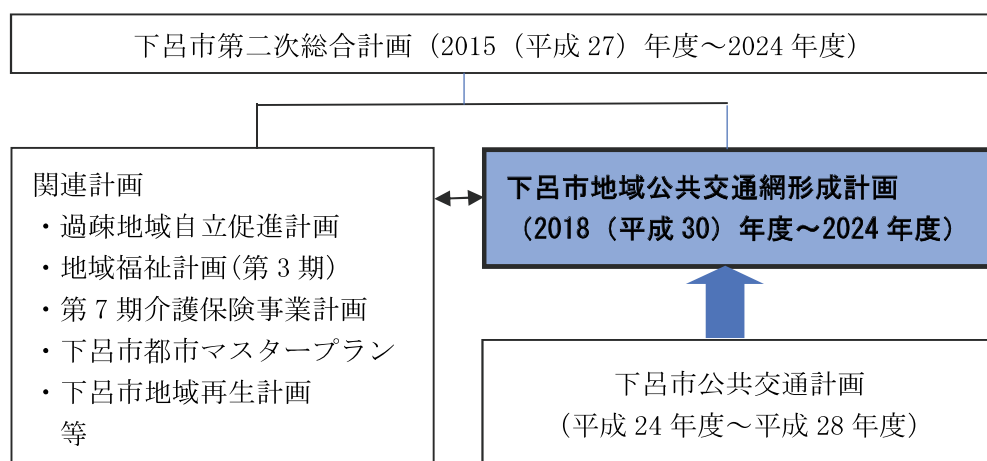


## 5 上位・関連計画における本計画の位置づけ

本計画は下呂市第二次総合計画を上位計画として、関連する計画との整合を図りながら公共交通に関する基本計画を定めたものと位置づけられる。

これまで下呂市公共交通計画が策定されているが、その計画年度が終了していることから、新たな計画として策定する。

図表序-1 本計画の位置づけ



※年度は、計画期間を示す。



▲がんだて公園



▲四美のしだれ桜



▲下呂温泉



▲中山七里



▲馬瀬川

## 第1章 下呂市の現状

### 1 少子高齢化・人口減少の顕著な進行

#### (1) 下呂市の人口推移

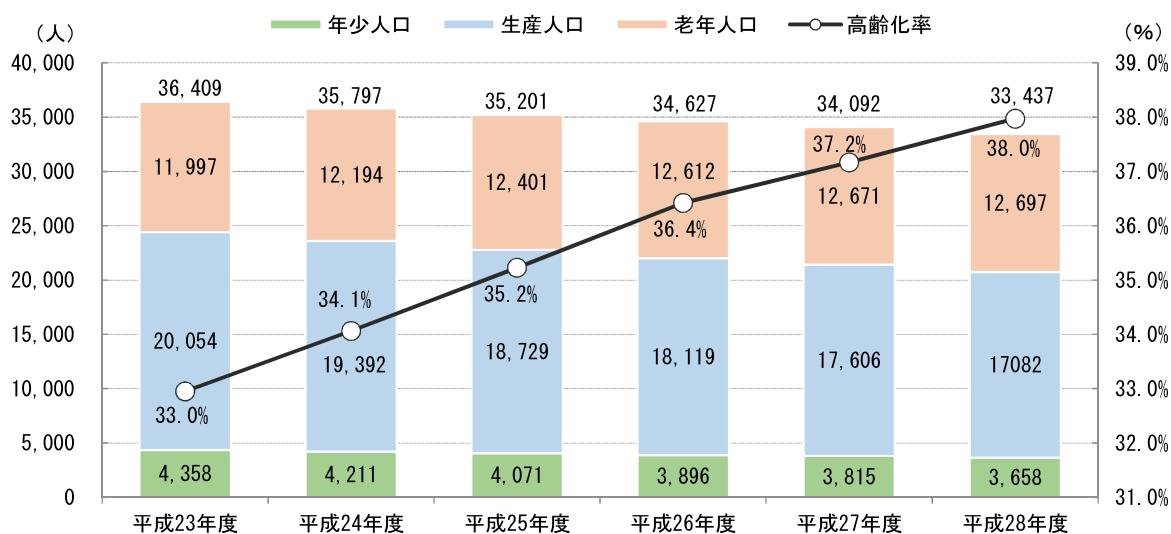
平成23年度以降、総人口は徐々に減少し続けている。年少人口（15歳未満の人口）及び生産年齢人口（15歳以上65歳未満の人口）が下降の一途をたどっている一方で、老年人口（65歳以上の人口）は一貫して増加を続け、高齢化率は平成28年度には38%になっている。

図表1-1 下呂市の年齢3区分別人口及び高齢化率の推移

(単位:人)

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
年少人口	4,358	4,211	4,071	3,896	3,815	3,658
生産年齢人口	20,054	19,392	18,729	18,119	17,606	17,082
老年人口	11,997	12,194	12,401	12,612	12,671	12,697
総人口	36,409	35,797	35,201	34,627	34,092	33,437
高齢化率	33.0%	34.1%	35.2%	36.4%	37.2%	38.0%

出典：下呂市人口動態（各年度末）



出典：下呂市人口動態（各年度末）



## (2) 地域別の年齢別構成

旧町村単位の5地域で見ると、小坂地域、金山地域では高齢化率が40%を超え、少子高齢化が顕著な地域となっている。他方、萩原地域や下呂地域では年少人口比率が比較的高く、高齢化率は若干低めとなっている。このように地域によって人口構成に特徴がみられる。

図表1-2 地域別年齢3区分別人口 (単位:人)

区分		男	女	計	構成比	
下呂市	萩原地域	年少人口	674	641	1,315	12.4%
		生産年齢人口	2,817	2,768	5,585	52.6%
		老年人口	1,602	2,112	3,714	35.0%
		小計	5,093	5,521	10,614	100.0%
	小坂地域	年少人口	146	136	282	9.0%
		生産年齢人口	778	688	1,466	47.0%
		老年人口	582	789	1,371	44.0%
		小計	1,506	1,613	3,119	100.0%
	下呂地域	年少人口	686	658	1,344	11.0%
		生産年齢人口	3,215	3,170	6,385	52.0%
		老年人口	1,935	2,608	4,543	37.0%
		小計	5,836	6,436	12,272	100.0%
	金山地域	年少人口	325	281	606	9.7%
		生産年齢人口	1,516	1,521	3,037	48.6%
		老年人口	1,132	1,477	2,609	41.7%
		小計	2,973	3,279	6,252	100.0%
	馬瀬地域	年少人口	68	43	111	9.4%
		生産年齢人口	290	319	609	51.6%
		老年人口	200	260	460	39.0%
		小計	558	622	1,180	100.0%
全体	年少人口	1,899	1,759	3,658	10.9%	
	生産年齢人口	8,616	8,466	17,082	51.1%	
	老年人口	5,451	7,246	12,697	38.0%	
	小計	15,966	17,471	33,437	100.0%	

出典：下呂市人口動態（平成29年3月末）

## (3) 下呂市の将来人口推計

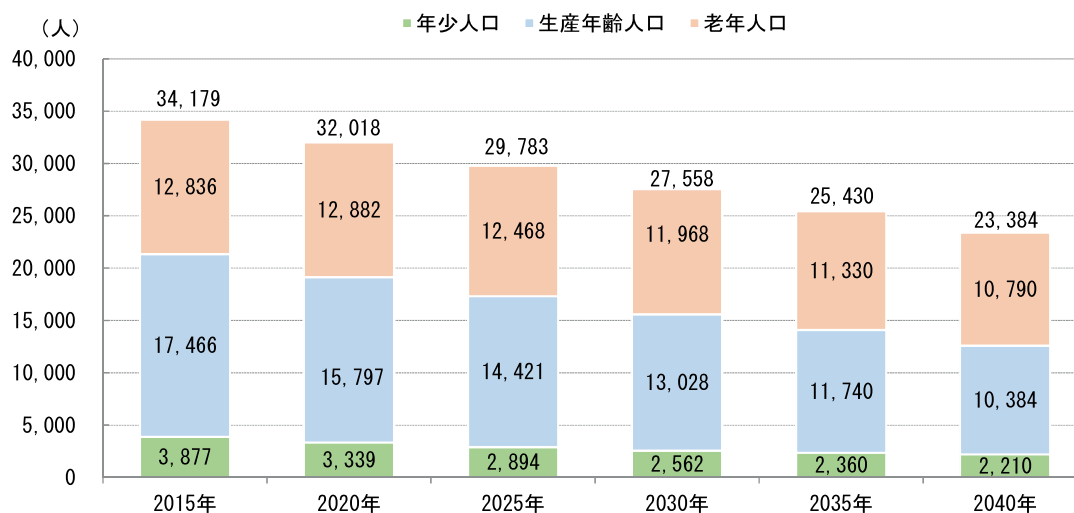
国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計によれば、総人口は今後も毎年減少し続け、2025年には3万人を割り込むと推測されている。また、生産年齢人口も全体の50%以下となることから、働き盛りの世代が減ることで経済活動も縮小し、市の活力が著しく低下したり若い世代が減ることで、地域での互助（助け合い）が成り立たなくなり社会保障費が大きく増えることも懸念される。

図表 1-3 下呂市の将来人口推計

(単位:人)

	2015年 (平成27年)	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
年少人口 (構成比)	3,877 (11.3%)	3,339 (10.4%)	2,894 (9.7%)	2,562 (9.3%)	2,360 (9.3%)	2,210 (9.5%)
生産年齢人口 (構成比)	17,466 (51.1%)	15,797 (49.4%)	14,421 (48.4%)	13,028 (47.3%)	11,740 (46.2%)	10,384 (44.4%)
老年人口 (構成比)	12,836 (37.6%)	12,882 (40.2%)	12,468 (41.9%)	11,968 (43.4%)	11,330 (44.5%)	10,790 (46.1%)
総人口	34,179	32,018	29,783	27,558	25,430	23,384

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

## 2 主要施設の立地状況

### 【病院・診療所】

馬瀬診療所、上原診療所以外の病院・診療所については主要駅付近に立地している。

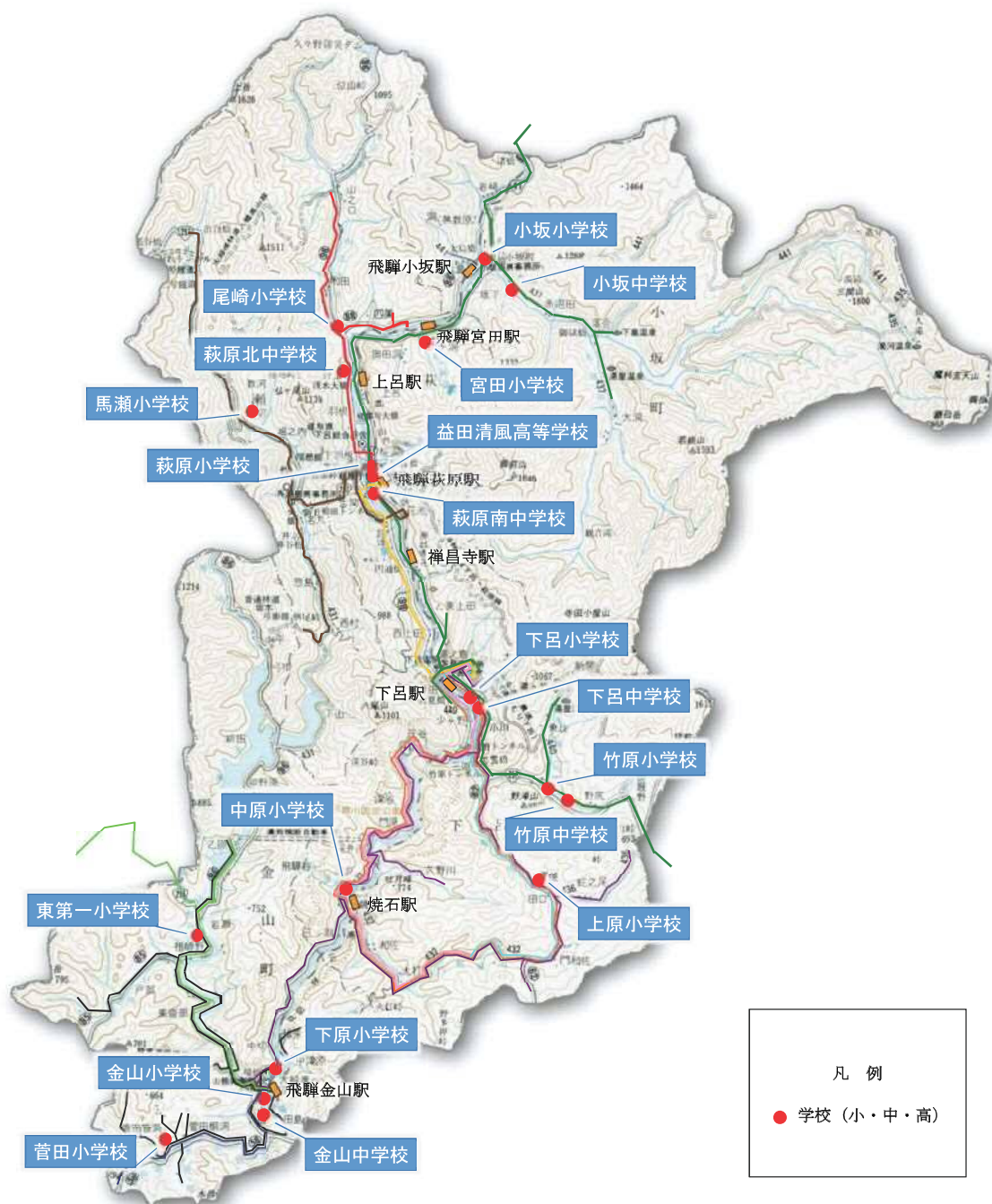
図表 1-4 病院・診療所位置図



【小・中学校、高等学校】

駅から離れて点在する集落にも小・中学校が立地している。

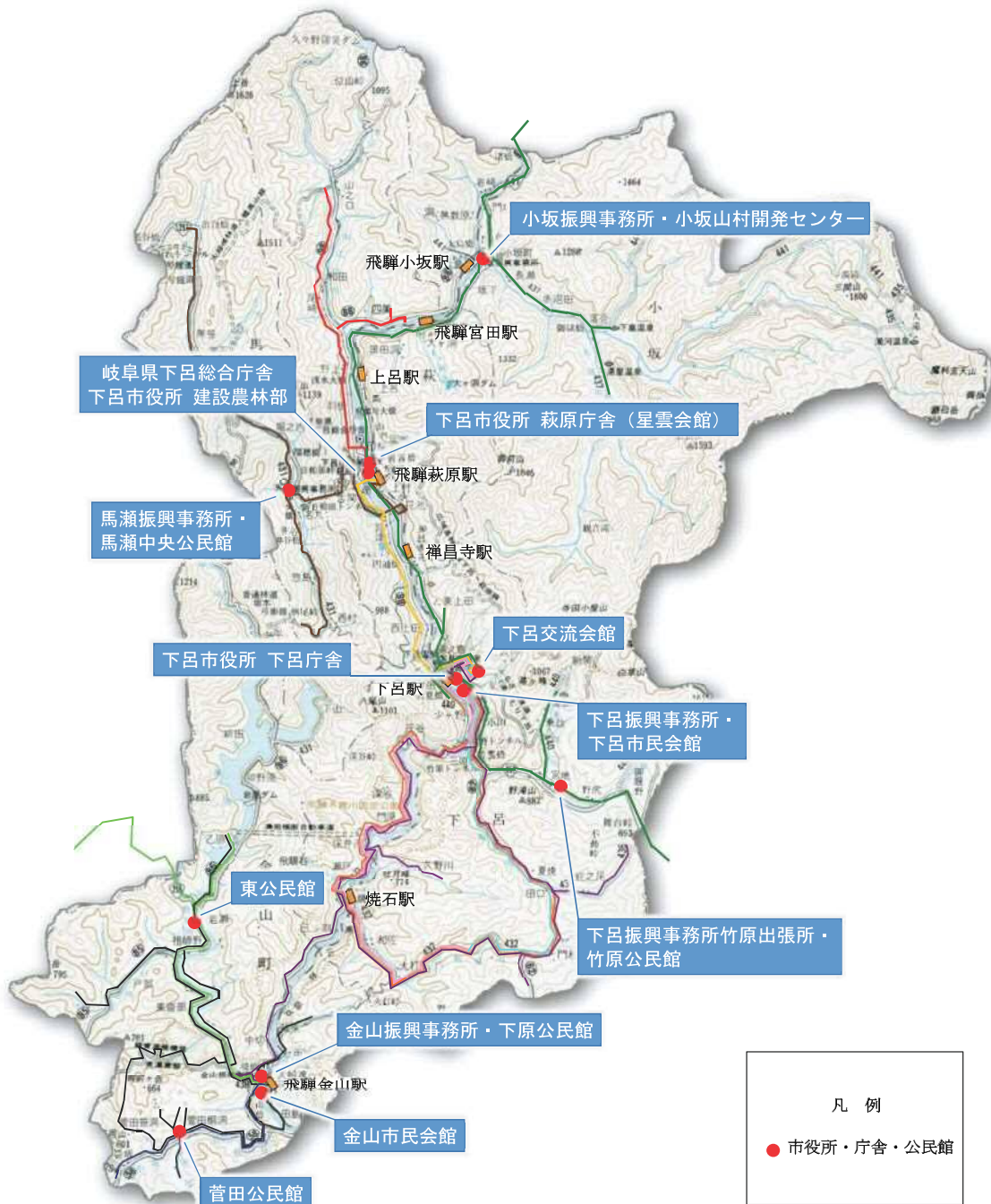
図表 1-5 小・中学校、高等学校位置図



【市役所・公民館等】

市役所（振興事務所）や公民館等の公共施設は、旧町村の中心部や主要な集落等でバス路線沿線に立地している。

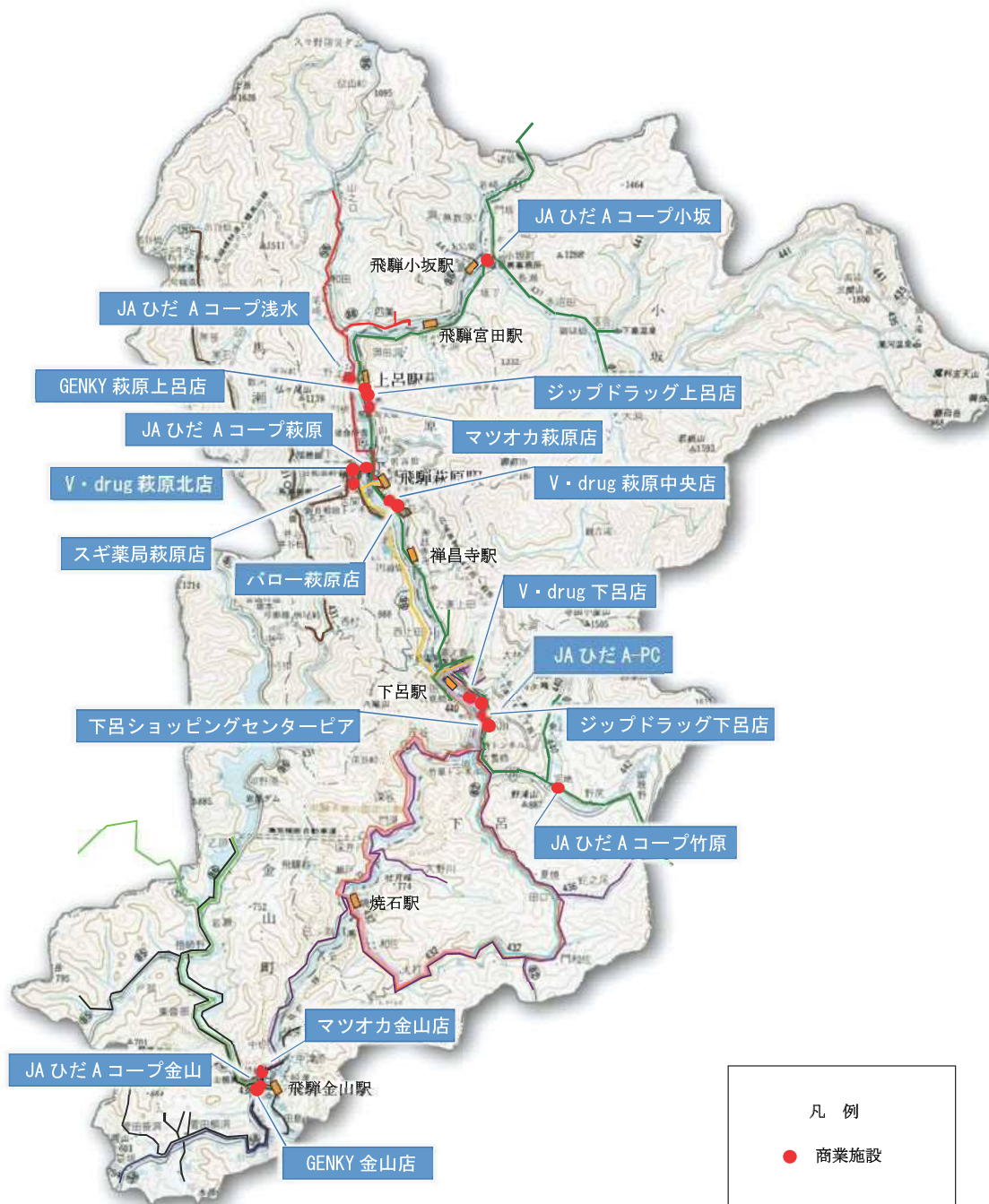
図表 1-6 市役所・公民館等位置図



【商業施設(スーパー等)】

主要な商業施設は主要駅周辺や国道41号沿線の人口が集積している地域に立地している。

図表 1-7 商業施設位置図

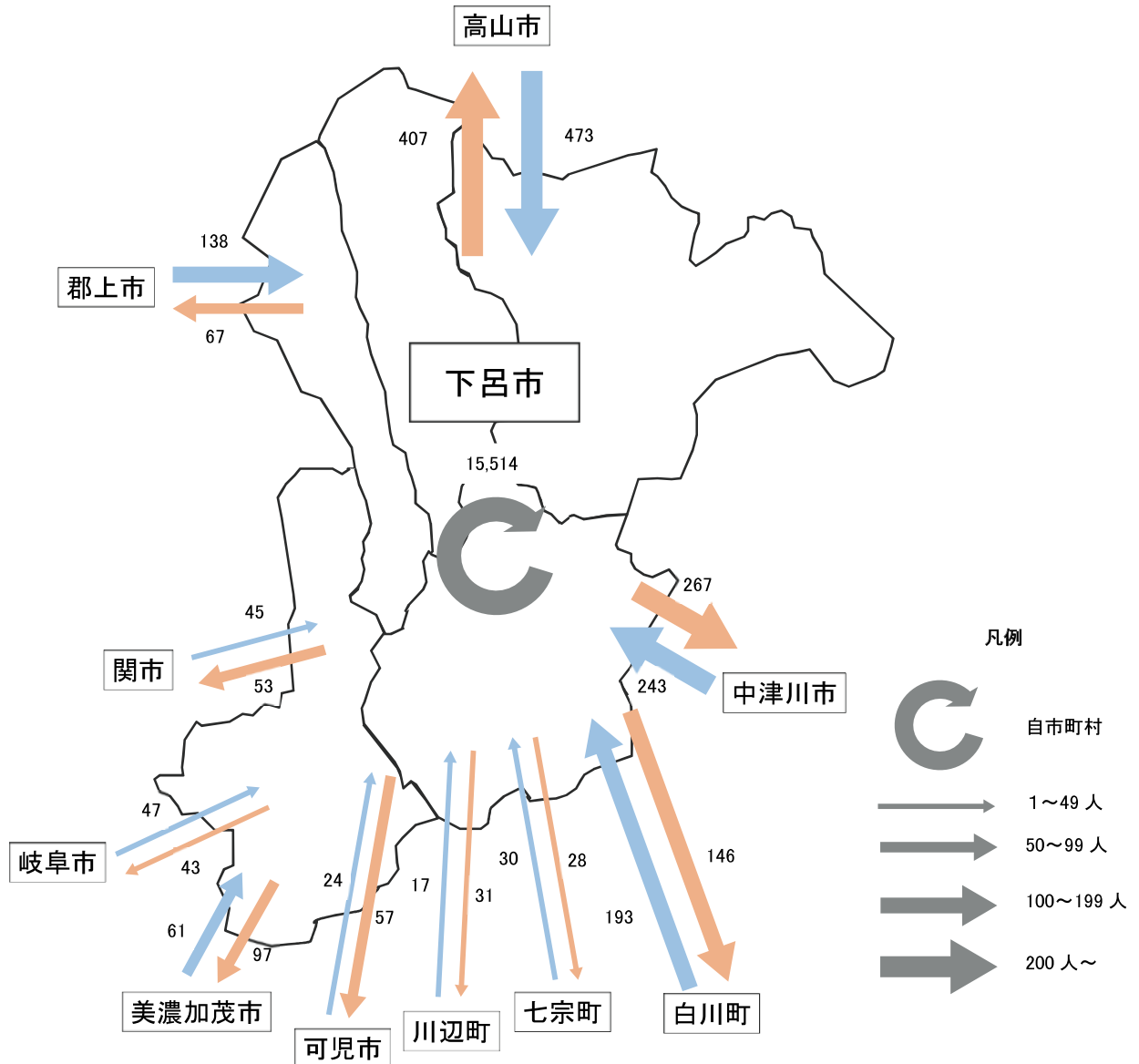


### 3 人口流動の状況

#### (1) 通勤に係る市域外の流動

下呂市に常住する通勤者は 17,107 人で、高山市、中津川市、白川町の順で流動が多い。

図表 1-8 通勤流動

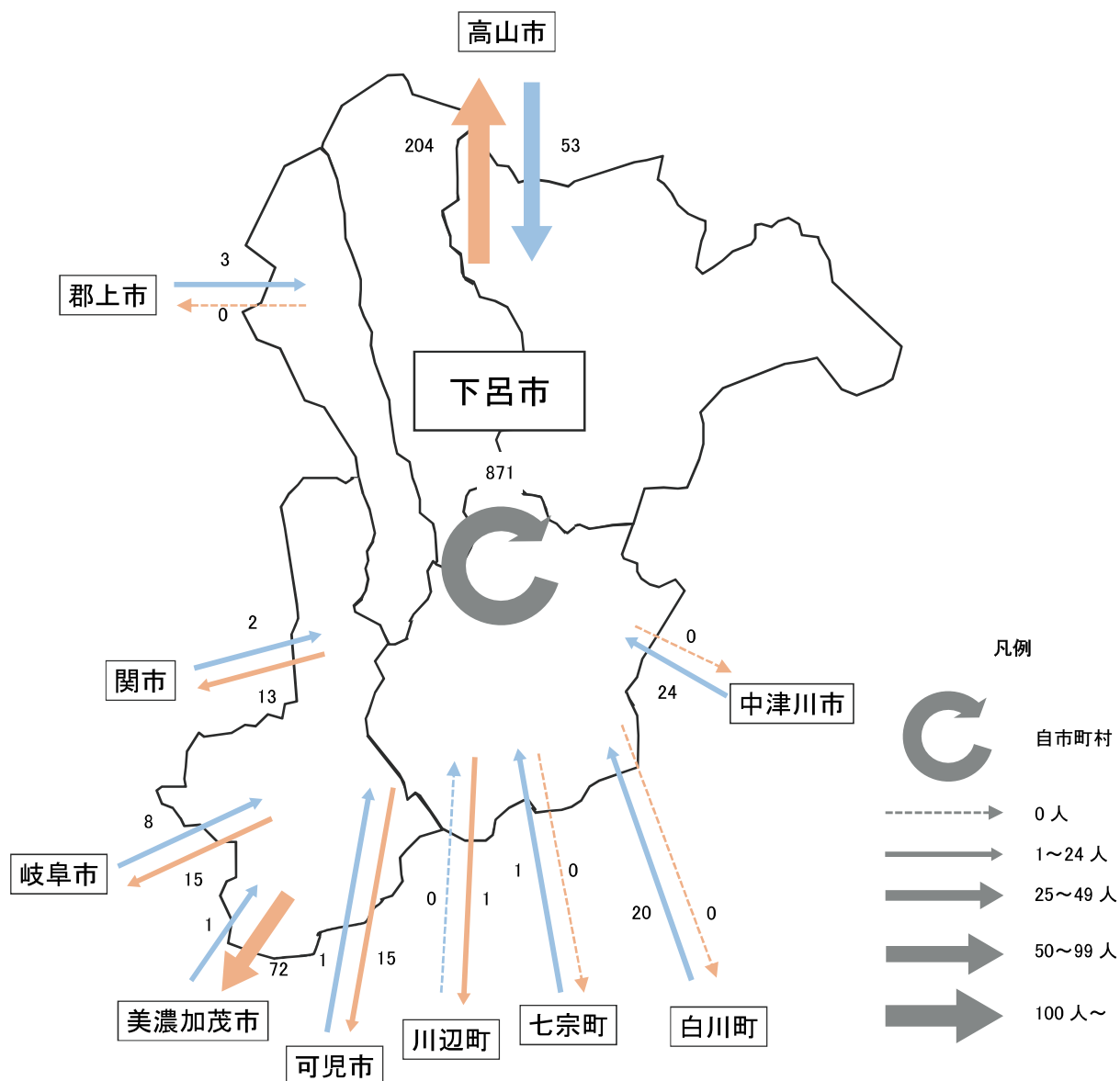


出典：平成 27 年国勢調査

(2) 通学に係る市域外の流動

下呂市に常住する通学者は 1,263 人で、市外への流動は高山市が最も多く、次いで美濃加茂市への流動が多い。

図表 1-9 通学流動



出典：平成 27 年国勢調査

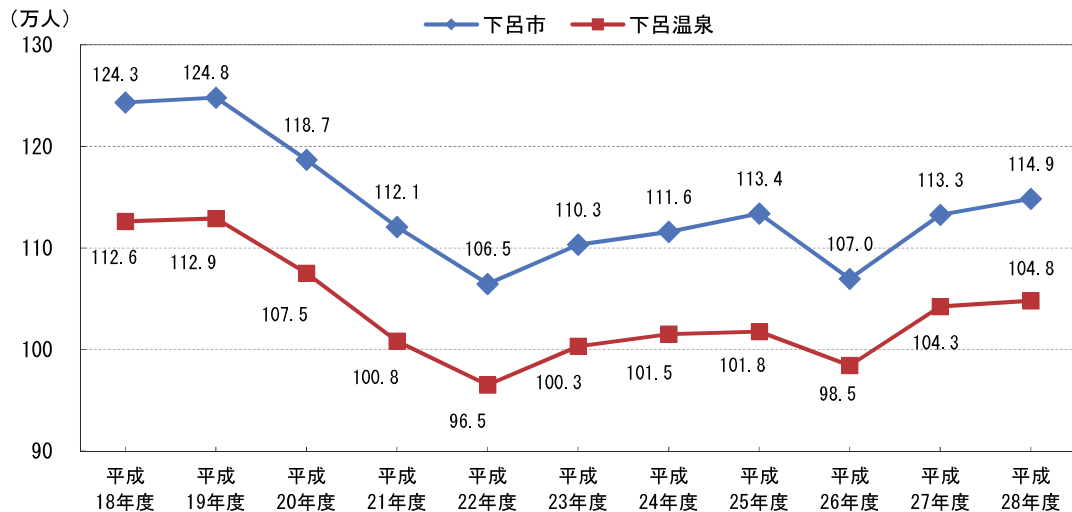


## 4 観光入り込み客数の動向

### (1) 下呂市の観光動向

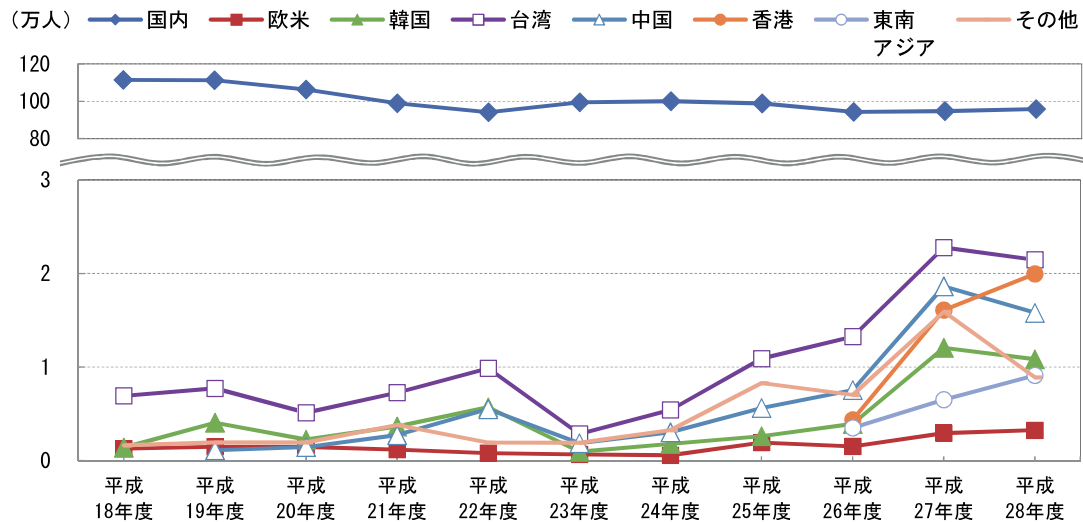
下呂温泉の宿泊者数は、平成 18 年度からの 10 年間で東日本大震災等の影響を受けた平成 22 年度と平成 26 年度を除き 100～110 万人台で推移している。また、国内からの宿泊客はほぼ横ばいなのに対して、外国からの宿泊者数は平成 22 年度から増加傾向にある。

図表 1-10 下呂市と下呂温泉宿泊者数の推移



出典：下呂温泉宿泊調査

図表 1-11 国内・外国人下呂温泉宿泊者数の推移



(単位：人)

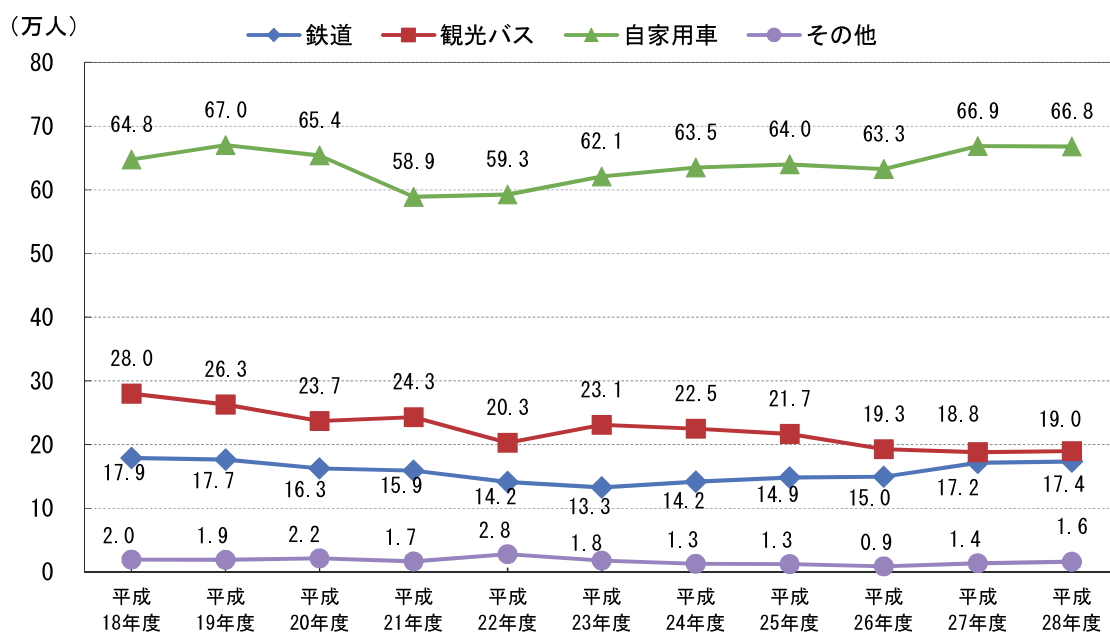
	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
国内	1,115,176	1,112,862	1,063,016	989,704	941,549	995,081	1,001,135	988,529	943,342	947,606	958,885
欧米	1,290	1,494	1,479	1,181	813	671	586	1,940	1,518	2,947	3,259
韓国	1,399	4,061	2,262	3,669	5,711	965	1,803	2,610	3,938	12,051	10,839
台湾	6,926	7,731	5,131	7,271	9,864	2,854	5,431	10,907	13,264	22,788	21,463
中国		1,115	1,454	2,730	5,504	1,868	3,053	5,633	7,541	18,643	15,800
香港	-	-	-	-	-	-	-	-	4,359	16,095	19,955
東南アジア	-	-	-	-	-	-	-	-	3,509	6,520	9,122
その他	1,636	1,957	1,953	3,813	1,928	1,922	3,268	8,289	7,030	15,920	8,920
計	1,126,427	1,129,220	1,075,295	1,008,368	965,369	1,003,361	1,015,276	1,017,908	984,501	1,042,570	1,048,243

出典：下呂温泉宿泊調査

(2) 交通機関別にみる宿泊者数の推移

下呂温泉への交通機関別の宿泊者数をみると、自家用車が年間 67 万人と最も多く、年々増加傾向にある。一方、観光バスは減少傾向、鉄道はインバウンド及び旅行商品増等により増加傾向にある。平成 28 年度の交通機関別割合をみると、自家用車 63.7%、観光バス 18.1%、鉄道 16.6%、その他 1.6%となっており、全体の約 6 割が自家用車を利用している。

図表 1-12 下呂温泉宿泊者数の交通機関別推移



出典：下呂温泉宿泊調査



▲下呂温泉合掌村



▲下呂温泉花火ミュージカル

## 5 地域における今後の動向

### (1) 旧下呂温泉病院跡地の二次交通発着所整備

下呂市地域再生計画（平成 28 年 3 月 15 日認定 計画期間は、認定日～平成 32 年度末まで）に基づいて、下呂温泉と市内の各観光資源を結ぶ二次交通の整備のため、二次交通発着所と駐車場を整備することになっている。また、周遊バス運行の事業化に向けて、調査、検証を行うことになっている。

図表 1-13 二次交通発着所の整備予定箇所図



### (2) 教育・保育の提供体制の確保に係るバス運行

少人数の保育園では、平成 29 年度から小規模保育が実施され、「未満児保育」、「一時保育」、「子育て相談」、「3～5 歳児の長時間保育」、「通園バスの乗車場所」といった様々な機能を備えた多機能型の子育て・保育支援施設（以下、「子育て保育ステーション」という）となる。そのことにより、3～5 歳児を子育て保育ステーションから連携施設（保育所、認定こども園）へ送迎する専用バスが必要になる。

### (3) 金山地域「小さな拠点ネットワークづくり構想」

道の駅かれん、温泉施設「湯ったり館」、金山病院等の周辺地域を「小さな拠点」として機能を充実するとともに、道の駅と周辺の各地区、駅等を結ぶ公共交通の利便性向上、新たなネットワークの形成等の取組みを進めようとしている。